1　この科目の構成について

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位　1　単位
対象コース	一貫・進学・総合　コース	対象クラス	1　年	1～6組
使用教科書	ＯＮ！　１			
使用副教材	高校生のための音楽研究ノート			

2　この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目標とします。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

歌唱・器楽演奏を中心に活動するため、発声、言葉の発音、身体の使い方を身に付け、積極的に調和を意識して活動に取り組みましょう。

(2)家庭

音楽のよさや美しさを自ら味わって、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、意見を述べられるようにしておきましょう。

3　この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組み態度
評価規準 （内容のまとまりごと）	［表現］ （1）歌唱 ・曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 ・曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して歌う技能、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けている。 （2）器楽 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解している。 ・曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けている。 （3）創作 ・音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解している。 ［鑑賞］ ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。	［表現］ （1）歌唱 ・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。 （2）器楽 ・器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。 （3）創作 ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。 ［鑑賞］ ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	［表現・鑑賞］ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組んでいる。
評価方法	技能（歌唱、演奏） 定期考査 行動観察	技能テスト（歌唱、演奏） 行動観察	行動観察 提出物 定期考査

4　この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	・校歌 ・賛歌	・二高生としての自覚をもつとともに、自校を愛好する心情を養う。	○	○	○
			・１番歌詞を暗記し、2人ずつ歌唱テストを実施する。		○	
			・賛歌ＣＤを聴き、主旋律を歌う。	○		○
		・楽典・楽譜の知識 ・音名・リズム・拍子 ・反復記号	・音楽の基礎である音附・休符・記号などを学び、曲の構成・進み方を理解する。	○		○
	5	・翼をください ・花は咲く	・ポピュラーソングを歌い、歌うことの楽しさを感じるとともに、効果的な演奏法を工夫する。	○	○	○
		・'O sole mio	・イタリア　カンツオーネの発音・発声を学び、世界の音楽との歌唱法の違いを体験する。	○	○	○
	6		・イタリア語歌詞で発音し、発声を工夫して、２人ずつ歌唱テストを実施する。		○	
		・鑑賞オラトリオ 「メサイア」	・第３９曲「ハレルヤ」、第４７曲「アーメン」を中心にＤＶＤを観ることで、より身近に感じられるようにする。	○		○
		第２回定期考査	・歌唱曲、楽典、鑑賞教材を範囲とする。 （4～6月）	○		○
	7	・器楽、音階 「ふるさと」 道徳	・キーボード、ピアノの指使いなど基礎から練習し、簡単な「ふるさと」のメロディーを弾けるようにする。	○	○	○
2	8	・少年時代	・季節に合った歌詞を味わい、歌って楽しむ。	○		○
	9	・Heidenröslein	・“野ばら”として、小・中学校で歌った経験を基に、シューベルト、ウェルナー作曲の違いを感じ取って、ドイツ語唱する。２人ずつ歌唱テストを実施する。	○	○	○
	10	・小さな空	・作曲者　武満徹について学び、世界における日本音楽のあり方を理解して、歌唱する。曲の途中で調が変わる転調や、特徴的な音楽用語を学び、表現の工夫をする。	○	○	○
		・Caro mio ben	・芸術歌曲のＣＤを参考に聴き、歌唱法により、どのような影響を受けるか感受して歌う。	○	○	
	11		・２人ずつ原語イタリア語唱テストを実施する。		○	
		・楽曲・音程	・２音間の音の隔たりを音程ととらえ、例えば、玄関のチャイムが３度等、生活の中で使われていることを知る。	○		○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2		・鑑賞「ブランデンブルク協奏曲」	・バロック派　Ｊ．Ｓ．バッハについて学び、音楽の歴史について理解を深める。	○		○
		第４回定期考査	・歌唱曲、楽典、鑑賞教材を範囲とする。（9～11月）	○		○
	12	・器楽　Yesterday	・キーボード、ピアノを演奏し、リズムや♯、♭の演奏法も体得する。		○	
		・A　Whole　New　World	・英語による発音の仕方を学び、歌い方を工夫して楽しむ。	○	○	
3	1		・ミュージカルが出来た背景、特徴を学び、そのよさを味わって歌唱する。	○	○	○
	2	・鑑賞　オペラ「トゥーランドット」 	・有名な❝誰も寝てはならぬ❞のメロディが、オペラの中の曲であると知り、総合芸術としての歴史的・文化的な価値を感じ取ることができる。	○		○
	3	・賛歌	・混声四部合唱の音楽の重厚感を理解し、各パートの旋律を確実に覚え歌唱する。	○	○	○

1　この科目の構成について（改行は Alt + Enter）

2024

教科	芸術科	科目	美術Ⅰ		単位　1　単位
対象コース	美術コース　コース	対象クラス	1　年	7　組	
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）				
使用副教材					

2　この科目の目標・学習内容・学習方法について（改行は Alt + Enter）

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

１年生美術Ⅰでは、①デッサン、②美術理論（色彩論と透視図法）、③彫塑という３つの領域で学習する。
①本コースの実技指導は、綿密な観察力と描写力を土台としているため、デッサンの実習には最も力を入れて学習する。
１年次では基本的な物の見方、表現方法の習得を目標とする。
②美術理論、色彩論は作品の色彩計画の基準となる知識を学習する。
３学期の最後には各種の透視図法を学び、アトリエの室内を描いて実習する。
③彫塑の課題は年間１回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する上で非常に重要な課題である。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

①はデッサンの基礎演習の実習。１学年前期では基本形体の描写、素描画材の扱い等、基本的な部分を確実に修得し、後期は自画像等発展的なモチーフを描く。
②美術理論では、前期は色彩論を学習する。色相環の理解、色の三属性の理解から、色彩論を応用した配色の演習を行う。後期は図法を学習する。三面図の読み取りと作図、多角形の作図を中心に学ぶ。
③彫塑では、立体造形の最初の課題として「握った手」をモチーフに、彫塑用粘土を使って制作する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校
デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。

(2)家庭
色彩論は、定期考査で出題されるため、自宅での予習、復習が不可欠である。

3　この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 （内容のまとまりごと）	①デッサン、 モチーフの比例、遠近法の理解。 構造的観察力、立体感、空間把握。 ②色彩論 主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで知識を図る。 ③彫塑 は主に完成作品で評価する。 素材の理解度、技能を評価。 立体作品のデッサン力で評価する。	①デッサン、 画面に対しての構図。 質感やイメージの表現力。 ②色彩論 色相環の作成、トーンイメージ図の作成により評価。 ③彫塑 は主に完成作品で評価。 創造性、表現力を評価。	①デッサン 作品の完成度。 制作に対する取り組み方。 集中力。 ②色彩論 授業中の態度、課題提出状況等を平常点として加える。 ③彫塑 完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価方法	考査の点数。 各課題を採点した点数。特に描写力や立体感、空間表現方法などの技術の習得を評価する。	考査の点数。 各課題を採点した点数。 各課題を採点した点数。特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。特に完成度を評価する。また、授業中の取り組み度も評価する。

4　この科目の学習計画について（改行は Alt + Enter）

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4 ～	「静物デッサン　基本形体の描写」 	「立方体、球体、円柱のデッサン」 使用教室第3アトリエ 12時間／A3画用紙／鉛筆 配布されたモチーフを鉛筆デッサンする 描写を理解する上で基本となる、立方体、球体、円柱の描写表現を理解する。 木の立方体、テニスボール、紙コップをモチーフに描く。 　鉛筆、練り消しゴムなど用具の使い方 　構図・基本形体の把握 　明暗の表現・質感の表現 　空間の表現	●	●	●
1	5	「色彩論」 色彩の基礎知識の学習 	「色彩論」９時間 使用教室：第２コンピューター室 色彩の基礎知識を学習。色の基本的な要素を学び、それを使って類似や対照、面積や配置などを配色の演習を行う。学習内容を今後のデザイン、絵画制作に活かす。 ５月に実施するデザインの課題「平面構成色彩演習」と連動した課題 ユニバーサルデザインを通し道徳教育を実施	●	●	●
1	5	「第一回考査　色彩論」 　筆記試験 	「第１回考査・色彩理論」 １時間／筆記試験 授業内容の理解度を確認する筆記試験。 色相環の理解 色の名称 色の明度、色相、彩度の理解 三原色の理解 トーンの名称 色彩論を応用した配色の理解	●	●	●
1	6	「第2回考査　デッサンコンクール」 	「第２回考査静物デッサン」 ２時間／配布モチーフ コンクールサイズ　画用紙／鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●
2	9	「秋期実技講習　事前課題」 	「冬期実技講習事前課題」 ９時間／木炭紙／木炭	●	●	●
2	9 ～ 10	「自画像　木炭デッサン」 	「自画像　木炭デッサン」 鏡に映る自画像を描く 15時間／木炭紙／木炭 明暗で大きく形態をとらえる描き方を学び、１月に実習する自画像油彩につなげる。 道徳教育 創造性を養い、多様な価値観を探求し、芸術を愛好する心情を育むとともにに、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、より良い社会を創り出す態度を養い、豊かな情操を培うことは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で基盤となる。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	10	「第３回考査　デッサンコンクール」 	「第３回考査　デッサンコンクール」 ２時間／手のデッサン コンクールサイズ／鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●
2	11	「第４回考査　静物デッサン　」 	「第４回考査　静物デッサン」 ２時間／Ｂ３画用紙／鉛筆	●	●	●
3	1 ～ 2	「静物デッサン　セットモチーフ」」 	静物デッサン　セットモチーフ」 18時間／B3画用紙／鉛筆 セットモチーフを描く課題 イーゼルを使用して描。 正しいデッサンの姿勢について学ぶ 構図の取り方について学ぶ モノトーンの明暗の色幅について学ぶ 制作における時間配分を学ぶ 対象物の構造的理解 表現における観察を通して質感について考える 上記の総合的完成度によって評価する	●	●	●
3	2 ～ 3	「任意の立体とパプリカ」 	「任意の立体とパプリカ」 21時間／彫塑用水粘土 一番身近なモチーフである手は、基礎的な課題でありながら、繰り返しの訓練が重要なモチーフである。 立体で実際に制作することによって、対象物を映像的にではなく、存在感のある立体として把握し、平面的制作において、空間や立体を認識した上での表現が出来るよう体験させることが目的。	●	●	●
3	2	「第５回考査　静物デッサン」 	「第５回考査　静物デッサン」 ２時間／B3画用紙 モチーフ	●	●	●

1　この科目の構成について

教科	芸術科	科目	絵画		単位	1　単位
対象コース	美術　コース		対象クラス	1　年	7 組	
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材						

2　この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

1　絵画では絵画表現全般を実習する。油彩、透明水彩による着彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な使用法を学ぶ。

2　デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作を習得する。

3　２年次以降に制作する大型の作品、また自由制作につなげる準備段階として、多様な絵画表現を目標して学習する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。
スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で２日間、野外に出かけて制作する。
その後各自で加筆して仕上げる。

(2) 家庭

特になし

3　この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組み態度
評価規準 （内容のまとまりごと）	①スケッチ実習 風景のヴァルール、色彩による空気遠近法の理解。 構造的観察力、立体感、空間把握。 ②着彩・静物 透明水彩絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。 ③油彩・自画像 美術Ⅰ自画像木炭デッサンで習得したデッサン技術の応用。油絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。	①スケッチ実習 風景のヴァルール、色彩による空気遠近法の理解。 構造的観察力、立体感、空間把握。 ②着彩・静物 透明水彩絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。 ③油彩・自画像 美術Ⅰ自画像木炭デッサンで習得したデッサン技術の応用。油絵の具の特性と扱い方の理解。基本的な表現方法の実践。	①スケッチ実習 作品の完成度。 制作に対する取り組み方。 集中力。 ②着彩・静物 作品の完成度。 制作に対する取り組み方。 集中力。計画性。 ③油彩・自画像 作品の完成度。 制作に対する取り組み方。 集中力。計画性。
評価方法	各課題を採点した点数。 特にデッサン力・色彩感覚を評価する。	各課題を採点した点数。 特に表現力、構成力の習得を評価する。	各課題を採点した点数。 特に課題に取り組む姿勢や完成度を評価する。

4　この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	5	■「校外スケッチ実習」 	■「校外スケッチ実習」（約10時間） 校外スケッチ実習で制作。 Ｆ8サイズ画用紙 パネルに水張りし、透明水彩絵具で描く 構造物を含む風景のスケッチ実習 ２日間で風景画を制作する パースペクティブの理解 透明水彩によるスケッチ技法の習得 道徳教育を実施 人や自然を題材とした絵画作品の制作を通して、自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を培う。人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深め、絵画表現の可能性を追求する態度を養う。主体的に幅広い絵画表現に取り組み，感性を高め，美術文化に親しみ，心豊かな生活や社会を創造していく態度を醸成する。	●	●	●
2	8 9	■「着彩・静物」 	■「着彩・静物」（24時間） Ｂ３サイズ画用紙パネルに水張り 透明水彩絵具で描く。 水彩絵具の基本的な使い方 静物セットをモチーフにした描写表現。	●	●	●
2	11 12	■「油彩・自画像」 	■「油彩・自画像」（24時間） Ｆ10キャンバスに油彩 美術Ⅱで実習した自画像木炭デッサンからの展開。 油絵具と即乾剤等油彩制作補助具の基本的な使い方を学ぶ。 自画像/人物の効果的な画面構成を実習する。			

1　この科目の構成について

教科	芸術科	科目	デザイン		単位　1　単位
対象コース	美術コース　コース	対象クラス	1　年	７組	
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）				
使用副教材					

2　この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

　デザインは用途があって制作されるもので、グラフィック、プロダクト、インテリア、建築、映像など多岐な分野に渡る。１年次ではデザインの考え方を学び、デザイン実習の基本要素として最低限必要な課題の実習を目標とする。またコンピューターグラフィックスの基本操作も実習する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。

(2)家庭

夏期休業と冬期休業に出題されるコンクールに向けた課題の制作。

3　この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	「平面構成」 仕事のきれいさ。 課題の理解度。	「平面構成」 効果と対比。計画性を評価。	「平面構成」 集中力。提出期限。
内容ごと	「エディトリアルデザイン」 グラフィックソフトの扱い。	「エディトリアルデザイン」 効果と対比。計画性を評価。	「エディトリアルデザイン」 集中力。提出期限。
評価方法	完成した作品によって評価する。 　知識では効果・対比の理解度。技能では美しい作業。これらの習得を評価する。	完成した作品によって評価する。 　思考や表現ではイメージを形にする表現。判断では制作のプロセス。これらの習得を評価する。	完成した作品によって評価する。 　取り組みの部分では授業態度の他、特に世の中のデザインに興味を持ち、どう作品に反映させることができたかを見る。

4　この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	5	■「コンクールポスター１」 道徳	「ポスターコンクール応募」 連休中の自宅課題 コンクールに出品する作品を制作する家庭課題 「暴力団追放」「防犯ポスター」「明るい選挙」「献血感謝」から一つを選んで制作し出品する。 ※画材、用紙のサイズ、タテヨコ位置は各コンクールの規定にあわせる。 道徳教育を実施 「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報やイメージを色と形で的確に相手に伝えるビジュアルコミュニケーション能力を養う。デザインに関する問題解決の考え方を養うとともに、社会の中でデザインが果たしている役割や影響を理解させ、デジタルからアナログまで幅広いデザインの進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」という目標のもとに行います。	●	●	●
1	5 ～ 7	■「平面構成１・色彩演習」	「平面構成１・色彩演習」　12時間 Ｂ３ケント紙にアクリルガッシュ 配色を検討する段階ではＣＧを使用 ４月から５月にかけて学習した色彩論を確認し、応用した課題。コンピューターグラフィックスの基本操作も学ぶ。平面構成の基礎課題。 以下の条件で配色を決めて制作 ①　７段階のグラデーション（白ー黒） ②　５つの明るさの度合いに合う高彩度の色相を配色 ③　②の高彩度の色を白または黒、もしくは補色を加え低彩度にする。 ④～⑦　４つの矩形を春・夏・秋・冬それぞれで塗り分ける。１つの矩形は７分割５色。⑦	●	●	●
2	8	■「コンクールポスター２」 道徳	「ポスターコンクール応募」 連休中の自宅課題コンクールに出品する作品を制作する家庭課題 「緑化運動」「防火運動」「薬物禁止運動」から一つを選んで制作し出品する。 ※画材、用紙のサイズ、タテヨコ位置は各コンクールの規定にあわせる。 道徳教育を実施 「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報やイメージを色と形で的確に相手に伝えるビジュアルコミュニケーション能力を養う。デザインに関する問題解決の考え方を養うとともに、社会の中でデザインが果たしている役割や影響を理解させ、デジタルからアナログまで幅広いデザインの進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」という目標のもとに行います。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1 ～ 2	7 ～ 8	■「エディトリアルデザイン」 	「情報誌のページを想定し、写真と文字の　レイアウトを作成」　20時間 Ａ４サイズ、縦位置、フォトショップ タウン誌のような、身近な所を紹介する情報誌を想定し、観光地を決定。Webより写真や文字の資料を集める。 地図、施設案内図をデザインする。 実際に発行されている雑誌を基にして、視覚的に美しく、読みとりやすい洗練されたデザインページを制作する。 より親しみが持てるようイラストも配置する。 魅力的な情報が盛り込まれており、より分かりやすく、行ってみたいと興味を引くデザインを目指す。 完成後プレゼンテーションを行う。	●	●	●
2 ～ 3	12 ～ 1	■「平面構成２・ 色と形、効果と対比」 	「モチーフ構成（アルファベットをモチーフとする）」　16時間 Ｂ３ケント紙にアクリルガッシュ 配色を検討するエスキース段階ではＣＧを使用。 色相対比。また透明感、立体感の効果を12×12cmの小画面で行う。これらの効果を基礎に踏まえ、30×30cmの大画面では色と形の構成により言葉のイメージが伝わるのか検討して大画面は２つのアルファベット、直線３本で構成し、大小異なる色面をおおよそ30個くらいに設定する。目立たせたい形は対比を強め、引っ込めたい形は逆に対比を弱めるなど情報を操作する力を養う。	●	●	●

1　この科目の構成について

教科	芸術課	科目	日本画		単位	1　単位
対象コース	美術コース　コース	対象クラス	1　年	7組		
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）					
使用副教材	無し					

2　この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、また日本画特有の空間表現を学ぶ。
1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。
静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。
放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2)家庭

特になし

3　この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組み態度
評価規準（内容のまとまりごと）	日本画画材の伝統に基づいた基礎知識の理解。 岩絵具と膠の基本的使用方法の習得。 対象を綿密に観察し、形、質、量感などを捉える力。 明暗や空間を捉える基本的なデッサン力。	画面全体を構成する総合的判断力。 絵画的表現力。 色彩の基本的理論を踏まえた上で、画面上で魅力的に表現する色彩感覚。	課題に取り組む意欲的な態度。 課題に対する感心と興味、探求の度合い。
評価方法	完成した作品によって評価する。基本的デッサン力と、日本画画材の基本的な知識を学び、技術を習得できたかを見る。	完成した作品によって評価する。モチーフから得たイメージを、正確な描写力と独自な感性によって、絵画として完成させる表現力を見る。	制作の姿勢が意欲的で、集中して臨んでいたかを見る。授業態度の他、日本画に対して関心を持ち、研究心を持って取り組んだかを見る。

4　この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	6 ～ 7	「日本画・静物」 	「日本画Ⅰ・静物」21時間 F6サイズ 雲肌麻紙をパネルに水張りして描く 顔彩使用 地塗りは岩絵具使用 モチーフは野菜や果物など、自然物の組み合わせ 日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形式で学習する。1年次では日本画実習の基本となる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日本画材の基礎も学ぶ。 ① B3スケッチブックにF6サイズの枠をとり、モチーフをデッサンする ② 雲肌麻紙を水張り ③ 下絵をパネルにトレースダウン モチーフをデッサンする ④ 墨で線描き 線による表現の実習 濃淡3段階の墨で線に強弱をつける ⑤ 岩絵具で地塗り 白群青・白緑青・黄土・岩桃 コバルトバイオレット・若葉 「白」を使う 岩絵具の粒子について知る 岩絵具を膠で溶く技法を学ぶ ⑥ 顔彩で彩色 綿密な観察 水彩絵具による細密描写 日本画における道徳教育 日本画制作を通して日本文化を愛する心を養い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。歴史の中で受け継がれ、形成されてきた技法を体験し、日本の独特な美意識と精神性から生まれた造形思想を学ぶ。また岩絵具、膠、麻紙など自然素材を使って描くことによって、改めて自然環境に目を向ける気持ちを培う。	●	●	●